

松浦議員（自民会）

平成 28 年 2 月 23 日
教育長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）グローバルリーダー育成校の成果の考え方について

グローバルリーダー育成校の設置に当たっては、県民の理解を得ることができるかを、まず第一に考えなければならない。

既に、進学実績が上がっている広島中・高等学校の成果を全県に広げるために、県内数カ所に併設型中高一貫教育校を設置するのであれば、地元の方にも理解が得られると思う。しかし、今検討しているグローバルリーダー育成校は、これまでの東大や京大を目指すような学校ではなく、全国、或いは世界のどこにもない学校だと説明している。

子供を学校に預ける保護者にとって、卒業後の進路は最大の関心事であり、どのような教育を行い、どのような生徒を育成するかということは勿論、卒業後の進路目標は必要なものである。入学した生徒が、いざ卒業するときに、大学への進学が難しいなどといった状況になれば、県民を騙したことになる。てしまう。

今から多くの税金を投じようとしている以上、卒業後の進路についてのイメージがなくてはならない。

そこで、多数の外国人生徒を受け入れ、国際バカロレアプログラムなどを導入して、新たな取組をするこの学校を卒業した生徒には、どのような進路が考えられるのか、また、この学校を卒業した生徒の進路が、どのような状況になれば、この学校は成果を上げたと言えるのか、教育長の所見を併せて伺う。

（答）

グローバルリーダー育成校では、育成すべき人材像として、「グローバルな視野を持ちながら、国際社会・地域社会の持続的な平和と発展を牽引できる人材」を考えており、卒業後の進路につきましては、このような人材の育成に取り組んでいる国内外の大学などを想定しているところでございます。

この学校の成果を測る上では、「どの大学に何人が進学した」ということ以上に、まず、生徒たちが卒業時に、

- ・ 「国際社会・地域社会の持続的な平和と発展」に向け、具体的な自らの将来像を描けているかどうか

- ・ 「自らが選択した進路が、その将来像の実現にどのようにつながるのか」について、自分自身の言葉で、明確に語ることができるかどうかということが重要であると考えております。

このため、この学校では、「如何にして難関大学に進学させるか」という観点ではなく、「生徒たちが目指す『自らの将来像』に、如何にして近づけていくか」という観点から進路指導を行い、「生徒が希望した進路を実現させられたかどうか」を評価していく必要があると考えております。